

第2回建築コンクール審査結果

テーマ:「これも建築？」

建築の土俵を少し広げて考えてみませんか

- ※ 審査委員; 中村好文氏、古谷誠章氏、伊礼智氏
- ※ 応募作品総数; 66 作品
- ※ 審査; 2011年4月16日(土)
審査会場; 東桜会館にて
- ※ 後援; 愛知県、名古屋市、(社)愛知建築士事務所協会、
(社)日本建築家協会東海支部愛知地域会、
(株)中部経済新聞社
- ※ 協賛; 中部電力(株)、旭化成建材(株)、(株)確認サービス、
総合資格学院(株)中部資格、(財)愛知県建築住宅センター、
東邦レオ(株)、(有)柏彌紙店、(株)サンゲツ、(有)名工社
- ※ 主催; (社)愛知建築士会名古屋北支部(2010年度)

たとえば、「サウンドスケープデザイン」は、音の環境または音の風景を作り出すためのデザインですが、これなどは従来の建築の枠組みを超えた領域の仕事だといえると思います。同様の仕事に「アロマスケープデザイン」があります。こちらは香りの風景、匂いの環境を作り出すデザインです。こうした仕事は、音や匂いなど形のないものを建築的・デザイン的にとらえて具現化する、または、具体的な形にして着地させるわけですが、これもれっきとした建築と言えると思います。また、もともと建築として考案されたモノでなくとも、いかにも「建築的な発想」と呼びたくなるものがあります。たとえば、水道管のジョイント部分に取り付けられる極小の「水力発電機」。水道管を流れる水が電気を生み出す仕組みです。水道管に「小さな水車小屋」が取り付けられていると考えただけでも、建築のイメージが大きくふくらんでくるような気がするではありませんか。というわけで、今回のコンペは「これも建築？」というテーマで、建築の枠組みを広げた視点で発想され、実現された「建築」または「モノ」を募集します。既成概念にとらわれない柔軟な思考から生まれた作品や、思わず膝を打ちたくなる作品に出会えることを心待ちにしています。

テーマ主旨文 中村 好文 記

受賞者一覧表

受賞名	応募者氏名	所属	作品名
最優秀賞	杉本光俊	ENTREZSANSFRAPPER	家族箱
優秀賞	羽原康成	ah	Sora-Project
優秀賞	小笠原正樹	早稲田大学創造理工学部建築学科	Birds Cafe
優秀賞	刀禰尚子・飯島敦義	日建設計	田圃の枯山水
中村好文賞	刀禰尚子・飯島敦義	日建設計	田圃の枯山水
古谷誠章賞	大崎晴地	東京藝術大学大学院	air tunnel
伊礼智賞	山田啓己	東京インタラクシオンセンター	Keyhole?
佳作	久野紀光	名古屋市立大学大学院芸術工学研究科	NCU-Bicyclepark
佳作	南川祐輝	南川祐輝建築事務所	イーストハウス
佳作	杉田 宗	Source Organization Network	Gathering
佳作	飯坂拓也	関西大学建築環境デザイン研究室	a space language
佳作	柳田里穂子	多摩美術大学美術学部 環境デザイン学科	とうめいなかべとちいさいくかんについて
佳作	蟻塚 学	蟻塚学建築設計事務所	弘南鉄道プロジェクト
佳作	西山芽衣	CUAD (千葉大学建築学科有志団体)	ヒトノス
佳作	石川智行	千葉大学大学院栗生研究室	みんなのぶらんこ
佳作	みんなのぶらんこ	makira DESIGN	code:NARA
佳作	石川恭温	石川恭温アトリエ 一級建築士事務所	堂内の雪
佳作	佐藤 敦	明治大学大学院理工学研究科建築学専攻	透明な風景
佳作	田所 真	早稲田大学	花糞袋 Dog-Walking Flower City
佳作	伊藤友紀		小さなシェルター ～生活痕の建築～

最優秀賞

❁ 「家族箱」

❁ 杉本光俊

❁ ENTREZSANSFRAPPER

❁ 応募者;家族で作った思い出を どこにいても忘れない 鳥が入らなくとも この箱があれば 家族皆が繋がっている 1枚のベニヤからできた箱10コ 親子共に夢を語り、つくった箱 あせた色に過ぎ去った 年月を思わせる箱 あの入口をくぐってキミは どんな世界に行こうとしている? どんな世界をかい くぐってきた? いつでも箱はそこにたたずむ 愛想 良く。

❁ 講評;バーチャルなつながりがあふれているなか、現実の空間としてつながっているところは、今回のテーマ「これも建築」にふさわしい。建築の解釈を広げてくれた。身の回りのものからテーマにあったものを見つけ出し、美しくまとめられた作品である。

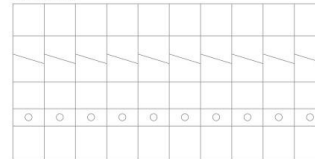


1枚のベニヤからできた箱10コ
親子共に夢を語り、つくった箱

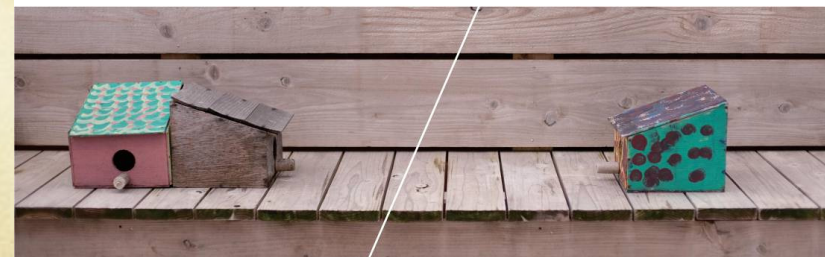
あせた色に過ぎ去った
年月を思わせる箱

あの入口をくぐってキミは
どんな世界に行こうとしている?
どんな世界をかいぐってきた?
いつでも箱はそこにたたずむ
愛想良く。

■ベニヤカット図



家族箱
家族で作った思い出を
どこにいても忘れない
鳥が入らなくとも
この箱があれば
家族皆が繋がっている



優秀賞

❁ 「Birds Cafe」

❁ 小笠原正樹

❁ 早稲田大学
創造理工学部建築学科

❁ 応募者:野鳥のための餌台(feeder)の計画である。14年間使い続けた木製の餌台が壊れたため、新しい物を求められた。設置場所(敷地)は札幌市の市街地と市街地を囲う山脈との境界に位置し、40種を超える野鳥が生息している。その中には警戒心が強く人前には姿を現さないものも多く、昔の餌台には人に慣れているスズメとヒヨドリがほとんどであった。

❁ 講評;自然環境や鳥の生態までも深く読み込まれていて、野鳥が来ている姿は正に建築である。



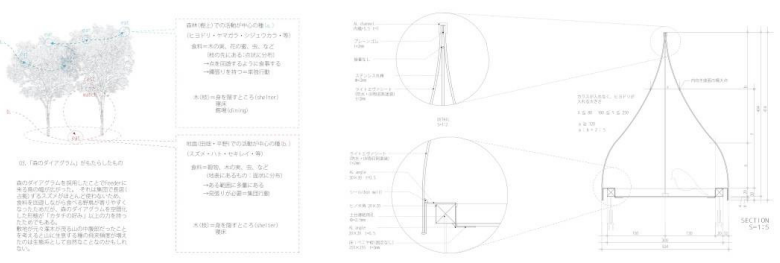
① 鳥の行動観察
「鳥の行動観察」を通じて鳥の行動を観察し、餌台の形状や高さ、設置場所などを決定する。観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。

② 鳥の行動観察
鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。

③ 鳥の行動観察
鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。

④ 鳥の行動観察
鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。

⑤ 鳥の行動観察
鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。鳥の行動観察の結果、鳥が餌台に近づきやすいように設計する必要があることがわかった。



優秀賞 中村好文賞

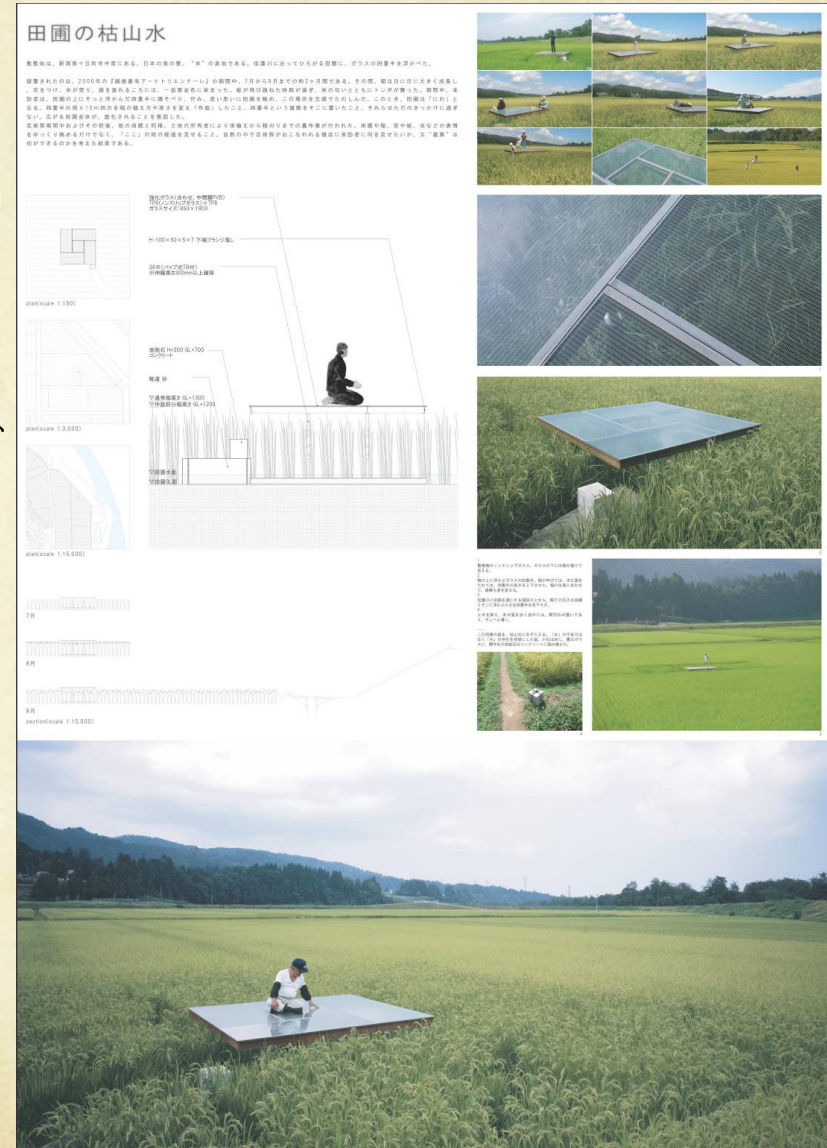
✿ 「田圃の枯山水」

✿ 刀禰尚子 飯島敦義 森部康司

✿ 日建設計

✿ 応募者;敷敷地は新潟県十日町中里にある。****設置されたのは2006年の「越後妻有アトリエンナーレ」の期間中、7月から9月までの約2ヶ月間である。その間、稲には日に日に大きく成長し、花をつけ、米が実り、頭を垂れる頃には、一面黄金色に染まった。カエルが飛び跳ねた時期が過ぎ、米の匂いとともトンボが舞った。期間中、来訪者は、田圃の上にそっと浮かんだ四畳半に寝そべり、佇み、思い思いに田圃を眺め、この場所を五感で楽しんだ。この時、田圃は「にわ」となる。四畳半の周り10m四方を稲の植え方や高さを変え「作庭」としたことで、四畳半という建築をそこに置いたこと、それらはただのきっかけにすぎない。広がる田圃全体が、庭化されることを意図した。芸術祭期間中およびその前後、他の田圃と同様、土地所有者により田植えから稲刈りまでの農作業が行われた。田圃や稲、空や蛙、虫などの表情をゆっくり眺めるだけでなく、「ここ」の時の経過を見せること。自然の中で芸術祭が行われる機会に来訪者に何を見せたいか、又”建築”は何ができるのかを考えた結果である。

✿ 講評;建築とは空間を限定することかも知れない。この作品は稲田の上に浮かんだガラスの板(四畳半)が鮮やかに空間を限定して見せてくれている。農作業の合間にこの四畳半に座ってみた百姓のおとつあんが、どこかシュールで非常にいい雰囲気を出している。写真を眺めているだけで顔がほころんでくる。人の心を和ませる建築といってもいいだろう。



古谷誠章 賞

❁ 「air tunnel」

❁ 大崎晴地

❁ 東京藝術大学大学院

❁ 応募者;4枚の大きな布が重なり、四辺で縫い閉じられています。一枚一枚の布には人が通り抜けるほどの穴が空いており、靴を脱いで上の穴から入ります。布の中に身体が入ることで隙間が開き、内部空間が立ち現れます。一枚一枚、布を潜って層を降りていき、一番下まで来たら端から出られます。4層構造をもつ柔らかな布は、身体の動きとともに空間がつくられる経験によって、あたかも柔らかな構造を持った4階建ての建築をイメージさせます。何もないひとつの空間(体積)に、4つの異なる空間が同居しているような「潜在的な建築」をコンセプトに、美術作品として製作しました。通常の建物は座標空間にもとづき上へと積み重なるため、当然違う階にいる人とは出会うことができません。しかし、同じひとつの空間を占拠する4層の布では、異なる階(層)にいる人と出会う(衝突する)こととなります。自明であった「空間」は再度、位相的に捉え直され、身体と空間、自己と他者の境界を引き直すこととなります。

❁ 講評;布を使った4階建は階という概念を超え、発展性を感じられる作品である。

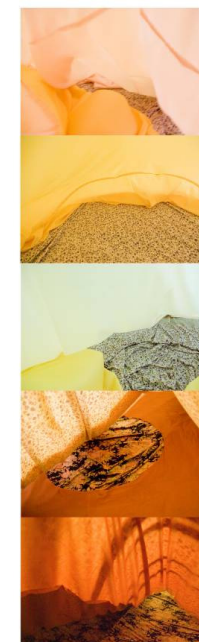
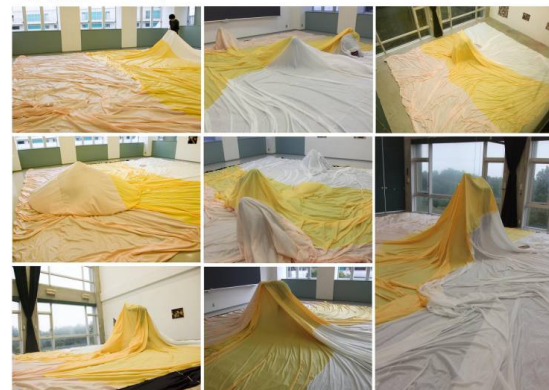


“air tunnel”

4枚の大きな布が重なり、四辺で縫い閉じられています。一枚一枚の布には人が通り抜けるほどの穴が空いており、靴を脱いで上の穴から入ります。布の中に身体が入ることで隙間が開き、内部空間が立ち現れます。一枚一枚、布を潜って層を降りていき、一番下まで来たら端から出られます。4層構造をもつ柔らかな布は、身体の動きとともに空間がつくられる経験によって、あたかも柔らかな構造を持った4階建ての建築をイメージさせます。何もないひとつの空間(体積)に、4つの異なる空間が同居しているような「潜在的な建築」をコンセプトに、美術作品として製作しました。



通常の建物は座標空間にもとづき上へと積み重なるため、当然違う階にいる人とは出会うことができません。しかし、同じひとつの空間を占拠する4層の布では、異なる階(層)にいる人と出会う(衝突する)こととなります。自明であった「空間」は再度、位相的に捉え直され、身体と空間、自己と他者の境界を引き直すこととなります。



布の内層:
上から入る光が布の内層空間にダイナミックな明暗や色の変化を生み、布をめくると空間は一変します。
布はポリエステルや絹の合成などを使用し、滑らかな質感から伸縮性のあるものなど、肌触りも異なります。

伊礼智 賞

❁ 「"Keyhole?"」

❁ 山田啓己 白井晃平
大貫喬平
Sohan Ariel Hayes

❁ 東京インタラクションセンター

❁ 応募者; 建築は、空間を物理的に作り出すもの。でも、その空間の中で、人と人が心を通わせるための「ココロの空間」を作るための建築が、あってもいいのではないのでしょうか。お店という空間の中では、人と人との距離は、物理的には近くても、心の面では遠い。同じ場所においても、お互いのことは知らない。ひとりのキャラクターが、人と人のココロをつなぐ。ココロの距離を縮める空間としての、建築。そんな新しい建築空間を作りました。

❁ 講評; バーチャルな世界だがこの場でしか会えないリアルな空間が入り込んでいるアイデアが楽しい。

'Keyhole?'

一鍵穴つきテーブルを使った、店舗空間のコミュニケーション促進プロダクト

建築は、空間を物理的に作り出すもの。でも、その空間の中で、人と人が心を通わせるための「ココロの空間」を作るための建築が、あってもいいのではないのでしょうか。

お店という空間の中では、人と人との距離は、物理的には近くても、心の面では遠い。同じ場所においても、お互いのことは知らない。

ひとりのキャラクターが、人と人のココロをつなぐ。ココロの距離を縮める空間としての、建築。そんな新しい建築空間を作りました。

白井晃平
大貫喬平
山田啓己

Wolf Lane Studio
Sohan Ariel Hayes

Keyhole table

riya+

制作の、過程

ベビソナ

「1. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「2. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「3. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「4. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「5. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「6. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「7. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「8. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「9. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」「10. 目的: 目的は、人と人をつなぐことである。」

Unity エンジンで、iPhone アプリを作成。3Dのキャラクターアニメーションを無料 LAYから制作。

テーブルの描出する、画面をマイコンユニット。

iPhone と画面にインタラクションし、画面の下に描出。iPhone を組み込んだテーブルの、完成品。

テーブルには鍵穴が空いていて、のぞき込むと「はいさいさん」の顔が。テーブルをタップすると、手を握ったりして応じてくれます。別の人がタップすると、おはようはそいつとのテーブルの方へ向ってしまいます。「はいさいさん」というキャラクターを顔にして、お店の中で、僕らが出た。知らない人同士でのコミュニケーションのきっかけをつくれます。

作品の動画は、次の URL でご覧いただけます。http://www.youtube.com/watch?v=LeOASZ5EK

佳作

❁ 「NCU-Bicycle Park」

❁ 久野紀光 + 名古屋市立大学大学院
芸術工学研究科久野研究室

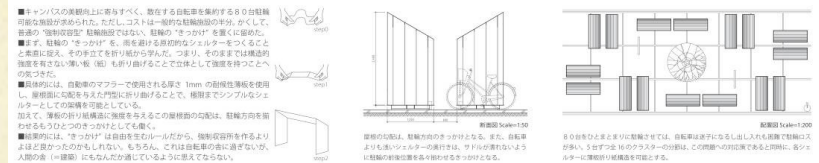
❁ 名古屋市立大学大学院
芸術工学研究科

❁ 応募者;***駐輪の“きっかけ”を、雨を避ける原始的なシェルターをつくることと素直に捉え、その手立てを折り紙から学んだ。つまり、そのままでは構造的強度を有さない薄い板(紙)も折り曲げることで立体として強度を持つことへの気づきだ。具体的には、自動車のマフラーで使用される厚さ 1mm の耐候性薄板を使用し、屋根面に勾配を与えた門型に折り曲げることで、極限までシンプルなシェルターとしての架構を可能としている。加えて、薄板の折り紙構造に強度を与えるこの屋根面の勾配は、駐輪方向を揃わせるもうひとつのきっかけとしても働く。結果的には、“きっかけ”は自由を生むルールだから、強制収容所を作るよりよほど良かったのかもしれない。もちろん、これは自転車の舎に過ぎないが、人間の舎(=建築)にもなんだか通じているように思えてならない。

❁ 講評;駐輪場の風景はあまり美しいものではないが、この作品は自転車の停めて方を風景としているアイデアが素晴らしい。



NCU Bicycle Park



佳作

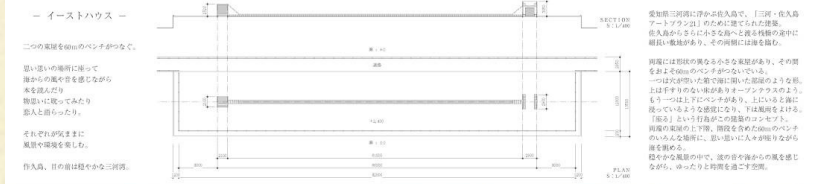
❄️ 「イーストハウス」

❄️ 南川祐輝

❄️ 南川祐輝建築事務所

❄️ 応募者;二つの東屋を60mのベンチがつなぐ。思い
思いの場所に座って海からの風や音を感じながら本
を読んだり物思いに耽ってみたい恋人と語らったり。
それぞれが気ままに風景や環境を楽しむ。作久島、
目の前は穏やかな三河湾。

❄️ 講評;ふたつの四阿とそれを繋ぐ長い長いベンチ。
海を眺めるための装置とも言えるし、一種のストリー
ト・ファニチュアとも言える。神殿のような階段があること
で装置でも家具でもなくまごうかたなき「建築」的に見
えてくるから不思議だ。階段が人間の行動と動作を
連想させるからだろうか？



佳作

❁ 「Gathering」

❁ 杉田 宗、Dale Suttle、Ginna Nguyen

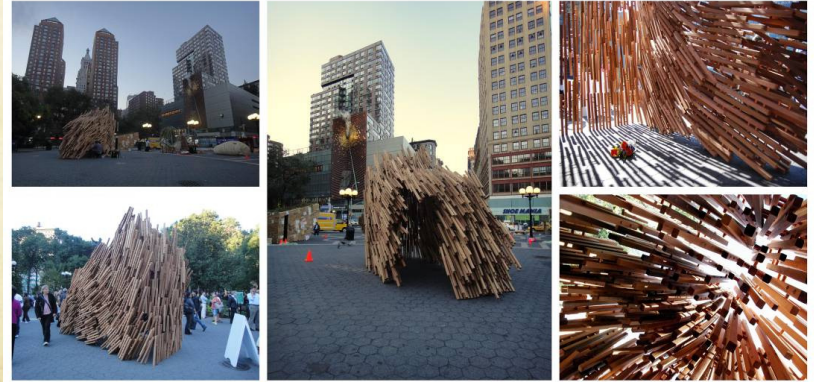
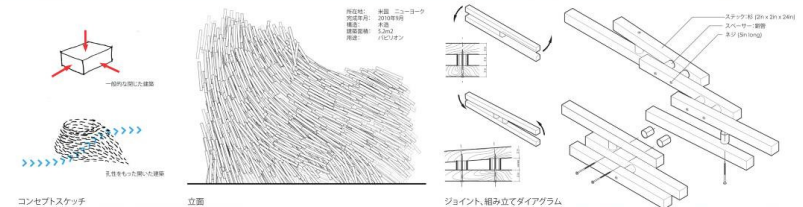
❁ Source Organization Network

❁ 応募者;ユダヤ教の三大祭の一つSukkot の為に毎年作られて来た Sukkah。このプロジェクトでは現代の観念から生まれる新しい Sukkahのデザインを提案。本来、Sukkahは複雑な制約や秘儀的なルールに沿って制作され、家族が集まり食事や休息をするための空間となる。伝統的な規則を守りつつ、より革新的な 非線形デザインプロセスを用いて設計ならびに施工を行い、都市の中のSukkahとしてニューヨークの公園の中に設置した。人間の動きが都市とこの非線形システムをつなげる重要な役割を担っている。形成プロセスの中で全体のスティックが動きながら開口や内部空間をつくり不規則性を持ちながらも新しい秩序をもった建築となっている。人間の動きは直接構造とのインタラクションを持ち、スティックの動きによって全体に多孔性を与えている。内部に入れば、スティック全体の流れが視線を星空へと導く。不規則性や光をコントロールするプロセスによって生まれたこの空間は現象的な個性をもち、ダイナミックで人々の心へ訴えかける力をもっている。この 建築の内部は全体の杉のステックから出る独特な香りが充満し、中に入る人の嗅覚をも刺激する。パビリオンをすり抜けて行く風があたりにも香りを広げることにより公園全体にその存在を示し、また消えて行く。実際に建つ建物以外にその建築が生む光や香りが都市にどのような影響を与えることが出来るのかを試みたプロジェクトである。

❁ 講評;システムチックだがいろいろな形を作り出し、香や空気の流れのようなものを考えられていて良い作品である。



ユダヤ教の三大祭の一つSukkotの為に毎年作られて来た Sukkah。このプロジェクトでは現代の観念から生まれる新しい Sukkahのデザインを提案。本来、Sukkahは複雑な制約や秘儀的なルールに沿って制作され、家族が集まり食事や休息をするための空間となる。伝統的な規則を守りつつ、より革新的な 非線形デザインプロセスを用いて設計ならびに施工を行い、都市の中のSukkahとしてニューヨークの公園の中に設置した。人間の動きが都市とこの非線形システムをつなげる重要な役割を担っている。形成プロセスの中で全体のスティックが動きながら開口や内部空間をつくり不規則性を持ちながらも新しい秩序をもった建築となっている。人間の動きは直接構造とのインタラクションを持ち、スティックの動きによって全体に多孔性を与えている。内部に入れば、スティック全体の流れが視線を星空へと導く。不規則性や光をコントロールするプロセスによって生まれたこの空間は現象的な個性をもち、ダイナミックで人々の心へ訴えかける力をもっている。この 建築の内部は全体の杉のステックから出る独特な香りが充満し、中に入る人の嗅覚をも刺激する。パビリオンをすり抜けて行く風があたりにも香りを広げることにより公園全体にその存在を示し、また消えて行く。実際に建つ建物以外にその建築が生む光や香りが都市にどのような影響を与えることが出来るのかを試みたプロジェクトである。



佳作

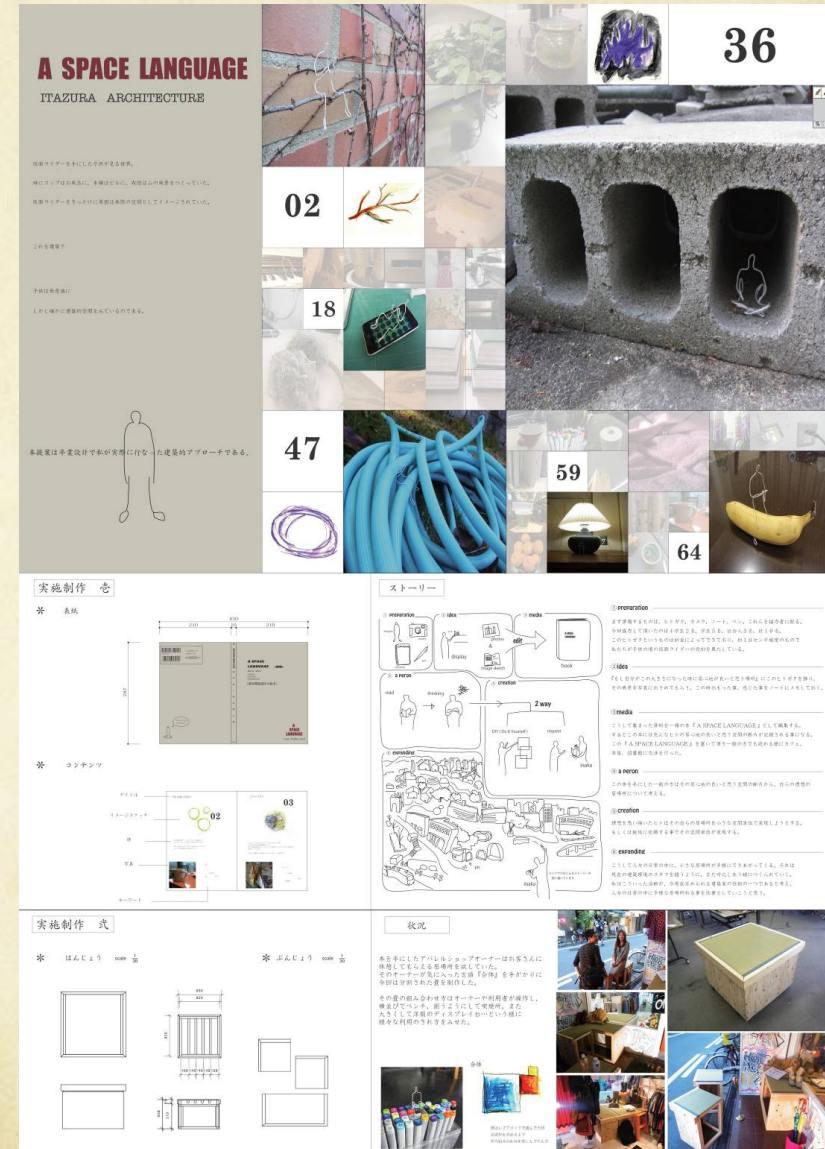
❁ 「a space language」

❁ 飯坂拓也

❁ 関西大学建築環境デザイン研究室

❁ 応募者;仮面ライダーを手にした子供が見る世界。時にコップはお風呂に、本棚はビルに、布団は山の風景をつくっていた。仮面ライダーをきっかけに周囲は無限の空間としてイメージされていた。これも建築？ 子供は無意識にしかし確かに建築的空間をみているのである。本提案は卒業設計で私が実際に行った建築的アプローチである。

❁ 講評;デザイナーベイは面白く、ブロックの隙間に座る、バナナにまたがるといった事を想像する事は素晴らしい。



佳作

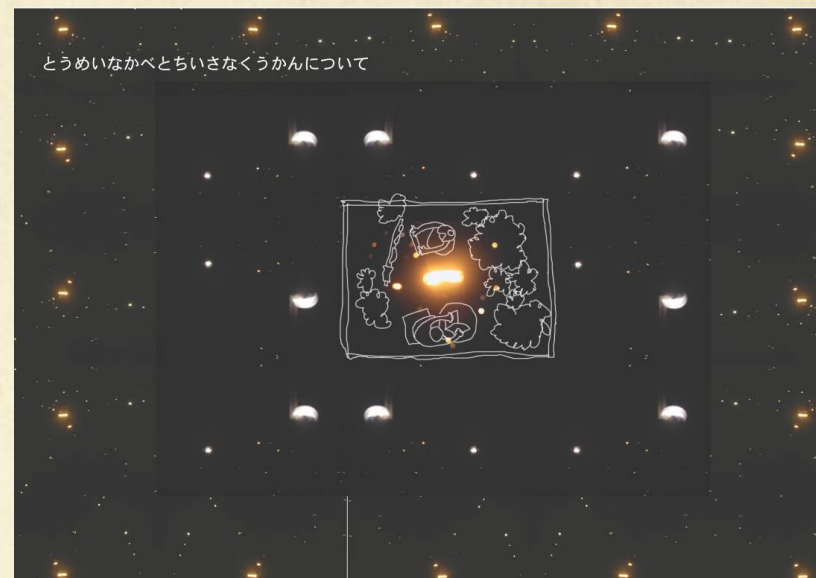
✿ 「とうめいなかべとちいさいくうかんについて」

✿ 柳田里穂子

✿ 多摩美術大学美術学部
環境デザイン学科

✿ 応募者; 建築は風景と人間の関係をモノだけでなく空気感でつなぐものであれば、また、基本的な柱や壁などをきっかけにし、場の色をつくるものでもある。今回の作品は、その場をつくるきっかけとしての壁について、改めて考えた。私たちは日常に、ガラス窓を何気なしに目にするわけだが、その際、その面に映し出された向こう側の空間を認識している。そこでこれを、ひとつの”透明な壁”として捉えた。昼間はその向こう側の風景を映しこちらの空間と一体化させる役割を持ち、夜間は私たちの暮らす姿を映しだしこちらの空間とその面のせかいをリンクさせている。昼夜この二つの空間は共に”透明な壁の向こう側”という同一の場に存在するがしかしそれは時間や人間、環境などによって全く違う表情をみせる。そこでこの透明な壁の向こう側には、私たちが想像できる限り無限の”空間という部屋”がいくつもあると考えられ、またそれがさらに向こう側に続くという想像により奥行きを出し、ひとつの建築といえるものになるのではないかと考えた。

✿ 講評; コンセプトの説明文章が非常にわかりにくいだが、この作品は、ガラスというものの透明性と反射性から「建築空間」の生まれる不思議を指摘しようとしているのだと自分流に解釈してこれを選んだ。



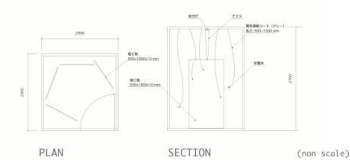
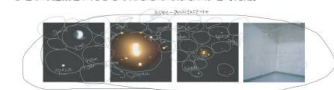
concept.

建築は風景と人間の関係をモノだけでなく空気感でつなぐものであれば、また、基本的な柱や壁などをきっかけにし、場の色をつくるものでもある。今回の作品は、その場をつくるきっかけとしての壁について、改めて考えた。

私たちは日常に、ガラス窓を何気なしに目にするわけだが、その際、その面に映し出された向こう側の空間を認識している。そこでこれを、ひとつの”透明な壁”として捉えた。昼間はその向こう側の風景を映しこちらの空間と一体化させる役割を持ち、夜間は私たちの暮らす姿を映しだしこちらの空間とその面のせかいをリンクさせている。昼夜この二つの空間は共に”透明な壁の向こう側”という同一の場に存在するがしかしそれは時間や人間、環境などによって全く違う表情をみせる。



そこでこの透明な壁の向こう側には、私たちが想像できる限り無限の”空間という部屋”がいくつもあると考えられ、またそれがさらに向こう側に続くという想像により奥行きを出し、ひとつの建築といえるものになるのではないかと考えた。



これにより、ありえてはいない空間の広がり認識、想像を創出し、そしてその広がり大きな建築のような空間を生むと考えた。

佳作

❁ 「弘南鉄道プロジェクト」

❁ 蟻塚学

❁ 蟻塚学建築設計事務所

❁ 応募者;大都市の地下鉄網に比べたら路線も利用客も便数も少ない。駅で数十分待つことも当たり前前の風景。でも絶対にここにしかないもの、ここでしかないものがあります。広大な田んぼとリンゴ畑に囲まれた最高のロケーションの中、地域みんなが一緒になって最高の駅舎をつくりました。

❁ 講評;ペンキを塗っただけで建築とした発想は素晴らしく小さな街づくりのようである。



弘南鉄道プロジェクト
ボランティアな活動を通して見える建築の本質

一 大都市の地下鉄網に比べたら路線も利用客も便数も少ない。駅で数十分待つことも当たり前前の風景。でも絶対にここにしかないもの、ここでしかないものがあります。広大な田んぼとリンゴ畑に囲まれた最高のロケーションの中、地域みんなが一緒になって最高の駅舎をつくりました。一



弘南鉄道プロジェクトの駅舎



駅舎の内部の様子

「ボランティアな活動を通して見える建築の本質」
弘南鉄道にボランティア活動を通して見える建築の本質。弘南鉄道の活性化と、ボランティア活動を通して見える建築の本質。弘南鉄道の活性化と、ボランティア活動を通して見える建築の本質。

「建築の現場」
弘南鉄道の現場の様子。弘南鉄道の現場の様子。弘南鉄道の現場の様子。

「空間で人を幸せにする」
弘南鉄道の空間で人を幸せにする。弘南鉄道の空間で人を幸せにする。弘南鉄道の空間で人を幸せにする。



弘南鉄道の地図



弘南鉄道の駅舎



弘南鉄道の駅舎



弘南鉄道の駅舎

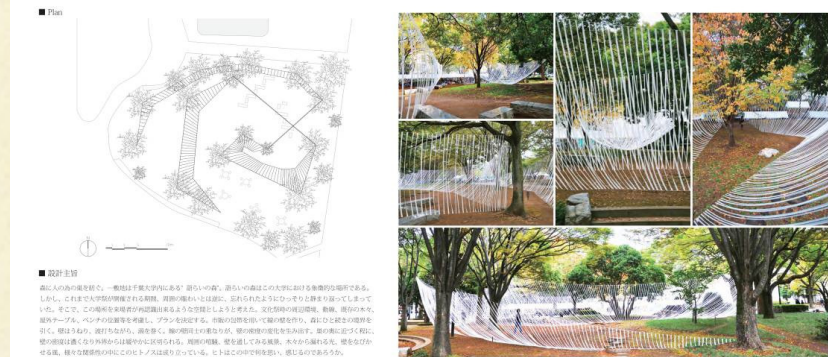
佳作

❁ 「ヒトノス」

❁ CUAD (千葉大学建築学科有志団体)

❁ 応募者; 森に人の為の巣を紡ぐ。一敷地は千葉大学内にある”語らいの森”。語らいの森はこの大学における象徴的な場所である。しかし、これまで大学祭が開催される期間、周囲の賑わいとは逆に、忘れられたようにひっそりと静まり返ってしまっていた。そこで、この場所を来場者が再認識出来るような空間としようと考えた。文化祭時の周辺環境、動線、既存の木々、屋外テーブル、ベンチの位置等を考慮し、プランを決定する。市販の包帯を用いて線の壁を作り、森にひと続きの境界を引く。壁はうねり、波打ちながら、渦を巻く。線の壁同士の重なりが、壁の密度の変化を生み出す。巣の奥に近づく程に、壁の密度は濃くなり外界からは緩やかに区切られる。周囲の喧騒、壁を通して見る風景、木々から漏れる光、壁をなびかせる風、様々な関係性の中にこのヒトノスは成り立っている。ヒトはこの中で何を思い、感じるのだろうか。

❁ 講評; 半透明で樹幹の間に出来た空間はキラ味があり美しい。



佳作

❁ 「みんなのぶらんこ」

❁ 石川智行 斉藤健
高橋護 奥山枝里

❁ 千葉大学大学院
栗生研究室

❁ 応募者;武蔵野台地の高台に位置する公園。そこに7つの“ぶらんこ”のようなベンチを設置しました。ベンチの両脇からは、約9mの棒(釣竿)がたちあがっています。棒の先端は空へと消えていて、ベンチは遠い空の彼方から下りてきた“ぶらんこ”のように見えます。空が開け風が抜けるこの場所の魅力とその魅力を増幅するものとしての“ぶらんこ”というイメージによって、ここにしかない空間をつくることを目指しました。

❁ 講評;素直に微笑ましい作品である。



佳作

❁ 「code:NARA」

❁ 牧ヒデアキ

❁ makira DESIGN

❁ 応募者;奈良をデザインコードとした長椅子(ベンチ)です。1400年以上前から受け継がれてきた奈良県の精神的背景を、エンタシスの列柱・そりあがった座面(屋根)・座面をつなぐ梁をもちいて表現しました。このcode:NARAは、部材を不定形に加工することで吉野檜の特徴である「美しい木目と色艶を存分に引き出しています。このcode:NARAは、長椅子として暮らしの道具であるとともに、奈良の雄大さ・美しさ・吉野材の素晴らしさを世界につたえ、見る人・座る人のこころを悠久の彼方へ誘うことでしょう。

❁ 講評;家具が家具に見えない感受性が素晴らしい。



❁ 「堂内の雪」

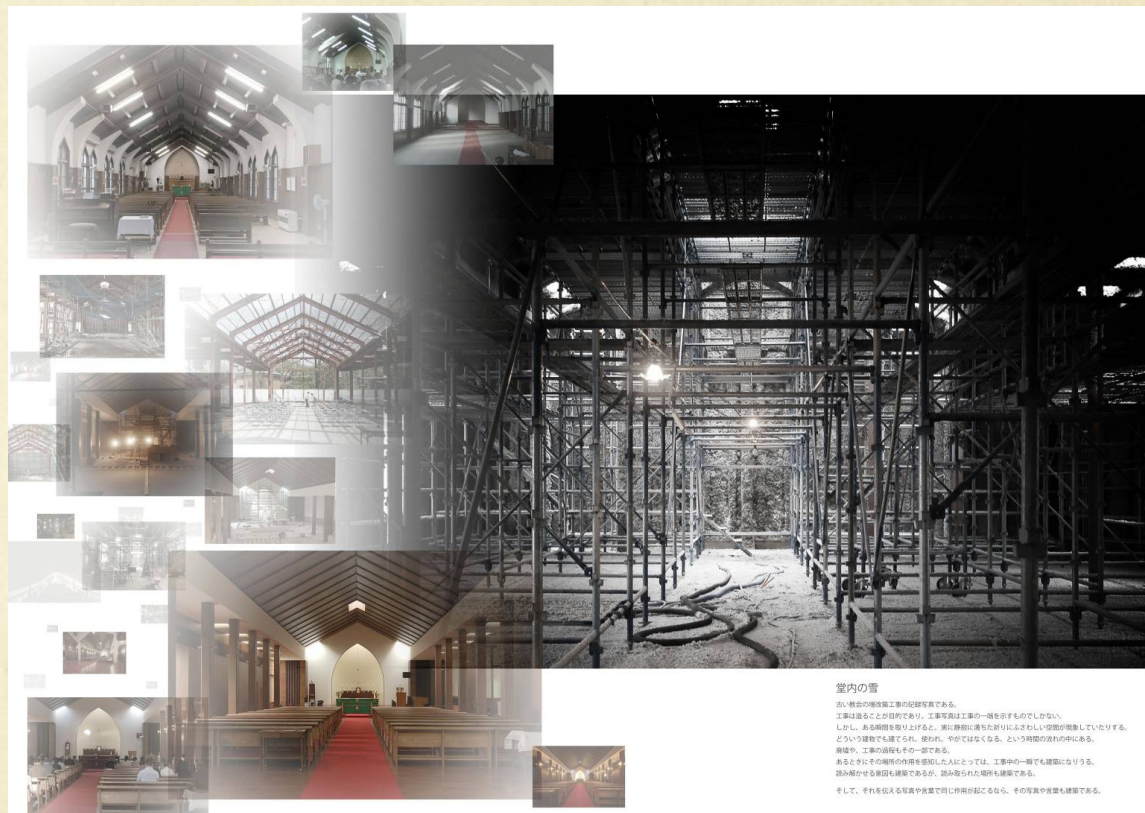
❁ 石川恭温

❁ 石川恭温アトリエ
一級建築士事務所

❁ 応募者;古い教会の増改築工事の記録写真である。工事は造ることが目的であり、工事写真は工事の一端を示すものでしかない。しかし、ある瞬間を取り上げると、実に静寂に満ちた祈りにふさわしい空間が現像していたりする。どうい建築でも建てられ、使われ、やがてはなくなる、という時間の流れの中にある。廃墟や工事の過程もその一部である。あるおきにその場所の作用を感知した人にとっては、工事中の一瞬でも建築になりうる。読み解かせる意図も建築であるが、読み取られた場所も建築である。そして、それを伝える写真や言葉で同じ作用が起こるなら、その写真や言葉も建築である。

❁ 講評;教会堂の中にしんと降り込む雪・・・といえばタルコフスキー監督の「ノスタルジア」という映画の素晴らしいシーンを思い出さないわけにはいかない。あの映画では廃墟になった大聖堂だったが、こちらは工事中の教会の現場である。未完成の建物や廃墟は、建築好きの心を妖しく騒がせるものである。そこに漂うある種の気配、あるいはオーラを建築と呼びたくなる気持ちに賛同の拍手を贈る。

佳作



佳作

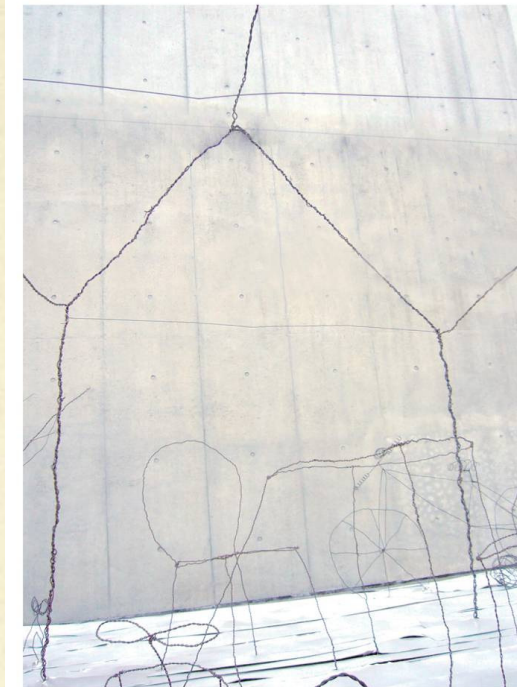
❁ 「透明な風景」

❁ 佐藤 敦

❁ 明治大学大学院理工学
研究科建築学専攻

❁ 応募者;大学のキャンパスの中に針金を使ったインスタレーションを作りました。遠くから見た時は壁の落書きのように見えるけど、近づいていくと小さな家や散らばった家具の中に空間の広がりを感じます。視点を変える事で線が色々に重なり合って目の前の風景が軽やかに変化します。針金をねじり合わせる事で繊細さと強い構造を併せ持った素材を作り出して、空間に落書きをするような表現を目指しました。

❁ 講評;針金で作られた立体的な落書きは、その手仕事の精度の悪さゆえに大きな魅力を獲得している。カルダーの針金彫刻とクレイのエッチングの線足を足して2で割ったような稚拙な表現はのどかで心温まる。どうせやるなら、テーマを住宅に限定し、寝室のベッドも台所の流し台も洗面器も便器も作ってもらいたかった。



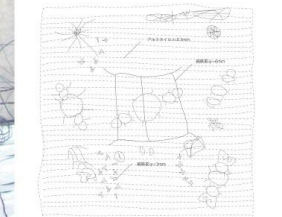
透明な風景

大学のキャンパスの中に針金を使ったインスタレーションを作りました。遠くから見た時は壁の落書きのように見えるけど、近づいていくと小さな家や散らばった家具の中に空間の広がりを感じます。視点を変える事で線が色々に重なり合って目の前の風景が軽やかに変化します。

針金をねじり合わせる事で繊細さと強い構造を併せ持った素材を作り出して、空間に落書きをするような表現を目指しました。



新築図 1/50



平面図 1/50



佳作

❁ 「花糞袋 Dog-Walking Flower City」

❁ 田所真

❁ 早稲田大学

❁ 応募者;都市において、ポケットパークや道端に咲く花も人々にとっての庭の一部であり、建築ではないか。犬の散歩で使用する糞とり袋に花のタネを織込んだ。使用後のを家に持ち帰らずに、市区町村が指定した花壇や公園の緑地帯に捨てる。やがて、みんなのお散歩コースが花見コースとなり、都市の花壇となる。

❁ 講評;ランドスケープデザインとしてさらに具体化して欲しかったがアイデアは良い。





「小さなシェルター ～生活痕の建築～」

佳作



伊藤友紀



応募者;2009年、渋谷区の狭いマンションの一室に、この建築は完成した。敷地となった8畳余りの居室はすべての壁に、玄関・トイレ・風呂・ベランダ・収納・サンルーム・隣室へ向うための7つのドアを持つ。その部屋に、7つのドアへの動線を殺さずにプライベートを守れるような個室を依頼された。たった2畳の、この小さなシェルターは、主に寝室と勉強部屋とペットの亀の生息場所を兼ねている。この周りを、本来なら内部であった居室が囲み、少しの余白は、7つのドアへの動線とダンスや洋服掛けで埋められている。居住者は、このシェルターに住んで2年になる。当初、非常に小さな囲いであったこのは、建築と呼べるかどうかわからないくらい小さやかなものであった。しかし現在では居住者の生活の痕跡にあふれ、非常に身体的なものに変化している。この小さな建築は、居住者にとって寝床であり、書斎であり、本棚であり、個人の人格の住居である。まるで生活痕から動物の巣を発見する様に、見る者に、居住者のキャラクターと生活の風景を喚起させる『ニンゲンの巣』であり、最小の建築である。



講評;実際に使われているところが良い。仮設性がシェルターとしての役割も想像できる。



小さなシェルター ～生活痕の建築～

2009年、渋谷区の狭いマンションの一室に、この建築は完成した。敷地となった8畳余りの居室はすべての壁に、玄関・トイレ・風呂・ベランダ・収納・サンルーム・隣室へ向うための7つのドアを持つ。その部屋に、7つのドアへの動線を殺さずにプライベートを守れるような個室を依頼された。たった2畳の、この小さなシェルターは、主に寝室と勉強部屋とペットの亀の生息場所を兼ねている。この周りを、本来なら内部であった居室が囲み、少しの余白は、7つのドアへの動線とダンスや洋服掛けで埋められている。

居住者は、このシェルターに住んで2年になる。当初、非常に小さな囲いであったこのは、建築と呼べるかどうかかわからないくらい小さやかなものであった。しかし現在では居住者の生活の痕跡にあふれ、非常に身体的なものに変化している。この小さな建築は、居住者にとって寝床であり、書斎であり、本棚であり、個人の人格の住居である。まるで生活痕から動物の巣を発見する様に、見る者に、居住者のキャラクターと生活の風景を喚起させる『ニンゲンの巣』であり、最小の建築である。

